

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター 春季号<第47号> (平成13年3月15日発行)

巻頭言

「これからの技術士」

(社)日本技術士会九州支部 顧問 黒瀬 正行 (建設・長崎)

21世紀に入りました。

私にとって20世紀とは、その世紀の初め頃生まれ、21世紀に入り80才になりましたが、この80年間は驚くべき事の連続でした。昭和不況、第二次世界大戦、ソ連への抑留、帰国後1948年から2001年までの画期的な技術の進歩、加えて経済の変動、自然の破壊、総て人間のした事であります。

科学とは？、を論ずる気持ちはありませんが、我々技術士がしなければいけない事は山ほどあります。技術士は理論だけでなく、現実の場所においてその力を発揮しなければなりません、今、技術の世界は一国集中ではありません。

長崎では日本とドイツを結ぶ産業交流を行い、今やドイツとの交流は全九州に及ぼうとしております。

幸い平成13年1月より、技術士は英文でP.E.Jpと名乗る事が決まりました。更に生涯学習制度も発足します。ところが国際的な場での技術活動の出来る人が何人いるのでしょうか？ 殆どのヨーロッパ人は英語で会話と交流ができます。はたして日本のP.E.Jpは？となると問題はないでしょうか。我々P.E.Jpはそれなりの国際的交流能力を持つべきではないでしょうか。先般の日韓技術士会で、韓国技術士は殆ど英語を話せます。何とかして一流国になろうとして一生懸命だからです。P.E.Jpであるためには国際的な技術情報を知り、我田引水でない国際社会に通用する技術の指導者でなければならないと思います。私の経験による海外との技術交流、おこがましい言い方かもしれませんが、技術指導はあくまでも相手を、更に相手国を知っての事でなければならないと思います。

先般の日韓技術士会での韓国側の報告で、日本の海岸線は自然と人工により入り組んだ海岸線が埋められており、臣歯状の海岸線が減少していると説明されました。韓国で日本の地形の将来像を画くと言う考え方が日本技術士の先生方にお解りでしょうか？ 失礼な言い方かもしれませんが、全ゆる国を対称としたP.E.Jpになる資格を持つ必要があるのではないのでしょうか。

日本の、九州の技術士が持つ、それぞれ異なる種類の技術を、全ゆる分野に役立て社会に貢献する事を考えては如何でしょうか。非常に幅広い範囲の技術士の集団として社会の役に立つ事は多いと思います。ちょっと考えても、南方諸地域の物産、特有の性質を日本の先進技術と結び合わせる、技術士なら出来ます。また、ドイツでは300万年後の人類の為に資源を地下坑道に入れています。今自然破壊と言う話題の元では全世界は一つです。即ち完全リサイクルも一例です。

皆でやりましょう我々の将来の世界の為に。

1人でも多くの方の入会をお勧め下さい

私の提言

近頃考えること

九州技術士センター 監事 松尾 憲一（機械・福岡）

“有難い”という言葉

ヒトゲノム解析の一部が発表された。国際コンソーシアム「ヒトゲノム計画」とセラ・ジェノミクス社双方とも、人の遺伝子は3万個程度という。60兆個に及ぶ細胞と3万個の遺伝子に支えられて、70年の永い間生き抜いてきたことになる。

この頃痛切に思うことは、自分自身の健康な体を造って戴いた両親と祖先に対するせい一杯の感謝の気持である。また、縁があった周囲の方々と物に、自分は生かされてきたのだという感慨である。“有難い”という言葉はこういう時に使ってこそ実感がこもる。

開業の駆け出し時代

さて話しは変わるが、私は技術士に登録して20年、日本技術士会に入って13年になる。平成4年に定年退職し、名前だけは立派な「松尾省力研究所」を開業した。機械コンサルタントとして。社会に貢献しようという意志をこめたつもりだ。

開業はしたけれど仕事は無い日が続いた。開業して初めて会社の肩書の重さをひしひしと感じた。先輩からの紹介で、温室の窓の開閉用システムを受注し、特許をとって仕事に挑戦したが、資金が続かずに途中でやめてしまった。「石の上にも3年」だと観念し、技術の蓄積に心がけた、技術士会九州支部の行事には、極力参加するようにした。技術士の皆さんの元気な顔を拝見していると元気がでたものである。

そのうちに、技術士の先生方から、仕事の紹介があり、天にも昇る気持を味わった。私には難しいなと思っても、やればできると言い聞かせて、進んでお受けすることにした。

中小企業とのかかわり

開業後の仕事の内容を考えてみると、中小企業の育成に関するものが多い。取り上げてみると、次のようなものがある。

1. 平成7～10年度：福岡県商工会連合会 嘱託専門指導員

2. 平成10～11年度：北九州テクノセンター 専門研究員

3. 平成12年度：北九州テクノセンター 非常勤嘱託

4. 平成11～12年度：福岡県企業振興公社 ニュービジネスINふくおか製品求評会評価委員（中小企業対象）

これらの活動を通して分かったことは、日本の中小企業はよく頑張っているということだ。唐津一さんの言葉を借りれば、「日本の工業製品が世界の中でこれからも一級品の評価を獲得していくには、中小企業が魅力ある分野であり続けることが基本条件のはずだ。」というご指摘のとおりである。

政府も、平成11年の国会は「中小企業国会」と位置づけて、平成11年12月には、新・中小企業基本法を公布・施行した。これによると、これまでの「大企業との格差是正」の政策目標から、「多様で活力のある独立した中小企業者の育成・発展」とし、新たな中小企業像を、機動性、柔軟性、創造性を発揮する「わが国経済のダイナミズムの源泉」だと定義している。このほか、創業の促進、創造的事業活動（ベンチャー）の促進が盛り込まれており、これらへの金融対策が拡大している。

時を同じくして「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転に関する法律」といわれるTLO (Technology Licensing Organization) 法が平成10年8月に施行され、全国の大学でTLO組織が作られている。

現状は研究シーズ提供側としての、大学、地域共同研究センター、公設試験研究機関等の組織と技術ニーズ側にあたる大企業、中小企業、起業家等を結ぶTLO組織がまだ弱体であること、大学等の研究成果を中小企業に移転するための技術的通訳者の絶対数が大変不足しているなどまだすべきことが山積している。

高等の応用能力を身につけた技術士が応分の対価を得て、一人でも多くこの技術的通訳者につける日があることを待望している近頃である。

中央の本部情勢として、支部長会議、その他本部等関係者から得た情報を基に記述する。

支部事務局の機能の充実

本部では、新年度からいよいよ支部事務局の充実に取組むことになり、各支部に対して、年間500万円の助成措置が予算として認められる。その内容は、事務所の面積として15～20坪（現在九州支部では10坪）の賃借料と、事務局員1人の人件費に充当するものである。

これは、新年度から施行される技術士法の改正にあたり、今後飛躍的に増大する技術士試験の受験者に対して「制度の説明」「受験書類の配布」「試験場の設営」等の受験者サービス、技術士継続教育（CPD）に関して会員外を含めての対応、地域における官公庁をはじめ各種団体等の折衝、技術士に関わる諸手続き等の問い合わせに対する対応等を、本部に代って適確に行なう必要があるからである。

事務所内には受付カウンター等をおいて対応するとともに、会員の溜り場として情報交換の場にするほか、中規模の会議も行なえるようにしたいと考えている。

4月には新しい事務所へ引越して気分を新たに、九州支部のさらなる活性化を図るべく、博多駅周辺の物件を調査中である。

技術士試験の会場

平成13年度の試験の実施日が決まり、各試験場の確保を行っている。2次試験は8月22、23日で、九州における受験者数は4,100人が見込まれている。これは本部において、昨年実績の建設部門は1.3倍、その他1.2倍と全国一率に倍率をかけて算出されたものであるが、果して結果はどうなるやら。幸いに福岡会場は九産大で受け入れ可能である。

1次試験は10月7日で見込み数は2,700人、これは昨年実績の1.4倍（全国一率）として準備が進められている。従来から行っていた東和大学だけでは収容しきれずに新しい会場を探しているが、大学側も簡単には借してくれずあちこち手を盡くしてようやく目途がついた。来年は南九州方面での試験場の

設営が必要となるであろう。

総合技術監理部門の試験

総合技術監理部門の試験は当初2次試験に合わせて実施されるとの情報があったが、諸準備が間に合わないためか、1次試験の翌日の10月8日(月)となり、試験会場の手当てが行なわれている。

受験者の見込数は、現在のところ2次試験の30%（これも全国一率）で、九州で1,250人の想定となっている。（私見であるが過大すぎると思うが意見を云う立場にない）これは既存の技術士以外でも一発での受験も可能なので、2次試験の受験者の重複受験もあると見込んでいるからか。

昨年末にやっと技術士法施行規則の一部改正が公布され、20番目の部門として「総合技術監理部門」の新設が確定した。受験資格は従来の資格にプラス3年となっている。試験科目は必須科目として「総合技術監理一般」、内容は安全管理、社会環境、経済性、情報人事管理。選択科目は既存の技術士は免除されるが、1～19部門の必須科目及び選択科目のうちから1科目を選ぶことになっている。

本部の各種委員会と支部の関係

本部には各種の委員会が設置されており、それぞれ活発な活動がなされている。残念ながらそれらの情報が当九州支部にダイレクトに伝わってきてない。その原因は支部からは殆んど委員が出てないし、予算的に出せない状況にあるからである。

委員会としては会の業務を分担する常設委員会として、倫理、政策、財務、事業、広報、業務、報酬の7委員会があり、旅費が支給されるが支部代表としては近隣支部が出席する。

特定事項について調査研究を行う調査委員会として、生涯教育推進、中心企業対策、技術士補対策、業務斡旋、日韓産業構造、地球環境技術、青年技術士懇談会、技術者資格問題、災害対応、海外業務促進の10委員会があり、旅費は各自負担となっている。

このような事情で本部の情報が支部に入り難く、今回、年度末急に実施する「産学官共同セミナー」もその影響である。新年度からは極力支部からも委員を出して、情報の受信発信ができるようにしたいと考えている。

技術資格の国際化と技術倫理の現状と動向

——九州地区中央講座（12年12月9日）概要から——

九州支部業務開発委員長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

はじめに

経済社会活動のグローバル化に伴い、技術者相互の国際的な交流と人材の流動が盛んに行われるようになった。米国、EU等では技術者の使命と果たすべき役割に関して、認識が高まり、技術者の公的な資格が社会的に高い評価を得ている。

わが国においては、「技術士制度を、技術の変化に柔軟に対応し、より広範囲な技術者のために活用できる国際的に整合性の取れた制度に改善する事により、海外の技術者との相互移動を促進すると共に、技術者の活性化を図る」（平成11年7月、閣議決定）事並びに、更に、高度化、複雑化の著しい科学技術に対する信頼性や安全、安心の確保の観点から、技術的実務能力は勿論の事、高い職業倫理を要件とする技術者資格に対する期待が高まっている。

これに向け、技術士法が改正（平成12年4月）され、国際的相互承認制度を視野に入れその充足すべき事項が明示されている。わが国を代表するエンジニアは、技術士及び一級建築士である事が決まった。昨年末 APEC エンジニア資格登録申請が始まり、今年審査を経て誕生する運びとなっている。

技術資格の国際化——国境を越えて活躍する技術者

世界貿易機構(WTO)での「専門職業人の自由な国際間の移動の促進」策定（1995年）以降、国家間の技術資格相互承認は、着実に進展している。わが国は、APEC に加盟し、このうちの7カ国*が相互承認を認証した。昨年11月1日、加盟各国が同時に APEC エンジニア資格登録申請開始を宣言している。

わが国の同資格登録申請者は、全国で983名、九州・沖縄地区で34名である。今回の申請は、CIVIL & STRUCTURAL に限定されている。その具体的技術分野は表1の通り。その他の技術分野（表2）も出来るだけ早く申請できるよう作業中。第2回申請時期は、3月6日に決定する。

*日本、オーストラリア、韓国、マレーシア、カナダ、ニュージーランド、香港

更に、2002年1月 EMF インターナショナルエンジニア登録開始予定で、世界主要国間の相互承認が始まる。グローバルエンジニアの誕生である。ここでの問題は、わが国の資格技術者数が先進諸国に比し、圧倒的に少ない事で、この是正が課題である。

第1 CIVIL & STRUCTURAL に対応する技術士技術部門

建設部門（土質及び基礎、鋼構造及びコンクリート、都市及び地方計画、河川・砂防及び海岸、港湾及び空港、電力土木、道路、鉄道、トンネル、施工計画・施工設備及び積算）、水道部門（上水道及び工業用水道、下水道）、衛生工学部門（廃棄物処理、空気調和施設、建築環境施設、廃棄物管理計画）、農業部門（農業土木）、水産部門（水産土木）、応用理学部門（地質）

表2 APEC エンジニア登録部門と技術士技術部門との対応（表1記載は除く）

Geotechnical Engineering 応用理学、建設、資源工学
Environmental Engineering 環境、衛生工学、建設、水道、農業、水産、応用理学
Mechanical Engineering 機械、
Industrial Engineering 電気・電子
Mining Engineering 経営工学
Chemical Engineering 資源工学、化学、機械、繊維、農業
技術者職業倫理

技術が巨大化し、社会に便益と豊かな生活を与えると同時に、安全や環境に大きな影響を与えるようになった。したがって、技術者は実務担当能力以外に社会や公益に対する責任が個人や所属する企業の利益に優先する事を要求される。日本技術士会倫理要綱は、1999年6月改定されその趣旨は、「一般公衆の安全、健康及び福利を最優先とする」を追加した。

わが国の科学技術者が国際的舞台上、単に科学技術の専門的能力だけでなく、その倫理性においても尊敬され、指導者として活躍するためには、理工系教育における職業倫理教育の抜本的見なおしが必要である。

〈ABET（工学系高等教育過程の認定を行う米国唯一の公的機関）のEngineering Criteria (EC2000)〉

単なる専門分野の知識と能力に秀でたエキスパートではなく、科学技術分野以外の「価値」の本質を理解し、自らの能力を継続的に向上させ、科学技術上の解決と、それがもたらす環境、社会、文化、経済、政治などの広範な影響との適切なバランスを取りながら、的確な「判断」にもとづいた意志決定の出来る「エンジニア」。

〈ユーロエンジニア1992年行動規範での要求事項〉

1, エンジニアが人間として守るべき倫理 2, エンジニアが専門職として守るべき倫理 3, エンジニアが社会的に守るべき倫理

科学技術者の倫理は、実際の側面が強い。米国では、事例研究が多々あり参考になる。

総合的な管理技術者

技術業務の複雑化、高度化、大規模化等に伴い、当該業務のみならず、外部環境への影響等を含め、

総合的に管理する必要が増大している。既に技術士の資格を有し、責任ある立場で一定年数技術業務についた技術士は、総合管理的能力を備えていると考えられる。

まとめ

技術資格の国際化、継続教育、職業倫理、並びに技術士数の増加等々は、技術士及び技術士会にとって極めて重要な事象である。これらは、わが国社会が、技術士の一層の活躍を期待しており且つ時代の要請でもある事を十分に認識し、これに応えること。これが我々の責務と考える。時代の風をしっかりと受け止め、会員一人一人が自主的に、積極的にこれに向け取り組み、わが国産業・経済の持続的発展に寄与し、国際社会に貢献し、この結果として技術士の社会的ステイタスの向上と、技術を尊重する社会風土形成を図ることを期したい。

ここに至るまでの、諸先輩及び関係者のご尽力に感謝致します。

21世紀の“食”は生活習慣病を超えられるか

——平成12年度第1回第五部会講演会報告——

第五部会は、農業、林業、水産、生物工学の四部門を統括した部会で、その各部門は幾つかの専門分野の集合体です。この事は当部会が、衣・食・住の原材料の生産基盤整備に始まり、生産作業、加工、これらに纏わる環境整備と管理等、生活を豊かにし、健康増進を計る上での必要な専門の科学技術者の集まりである、とも言えます。「第五部会=人の生命を大切にす部会」をキャッチフレーズにしている所以でもあります。

かかる観点から、平成12年度の部会活動第一回は共通の話題として、「食と健康」に関するテーマでの講演会を企画し、12月9日に実施したので概要を報告致します。

講師には、臨床医としてもご活躍中で、且つ心理学、文化人類学、食料科学なども取入れられ、幅広い視点から健康について研究・実証され、著書も多い九州大学健康科学センターの藤野武彦教授にお願いしました。

部会幹事会と支部長との打合せの結果、健康に関

第五部会長 小出 剛（農業・福岡）

する話でもあり、第五部会に限らずに支部全会員に案内する事としました。偶々、後日、本部からCPD説明会を同日に開きたいとの申込みがあり、前半：CPD、後半：健康講話の後懇親会の順で進行し、出席者は会場200余りの椅子も不足し沢山の立席も出るほどの盛会で有意義な会でした。

「21世紀の“食”は生活習慣病を超えられるか」と題した藤野教授のお話は、研究・実証・臨床に裏打ちされたものだけに、皆さん熱心に聴き入りました。また、国内・外での講演経験も豊富なためか、話し方もユニークで終始楽しく、講師と会場の呼吸もピッタリで、爆笑の渦も数えきれないほどでした。

①肥満、糖尿病、高血圧症、高脂血症の四疾病を生活習慣病（昔は成人病）と呼び、病気の原因と症状、また四疾病の相互作用の怖さ。

②発症原因の殆どが、ストレス過剰→脳疲労→五感異常→行動異常（嗜好異常、過食等）→生活習慣病の順序で起きている事。

③病気の予防と治療について、「医食同源の科学」

が最も古くて最も新しい重要な概念である事。(モデルの一例として醸造酢効果の研究事例)更に食品相互間の問題、微生物や化学物質との関連、味覚による五感の活性化、生産者と消費者間の新たな連携の重要性等。

④生活習慣病を克服する為の新たな食生活システムの骨子として、次の「2原理&3原則」なる仮説を掲げられた。

A) 2原理

a) 自分で自分を禁止・抑制しない(禁止・抑制のルール)。

b) 自分にとって心地良い事を一つでも開始する(快のルール)。

B) 3原則(2原理の具体的な事項)

a) たとえば健康に良い事(運動など)やよい食べ物でも嫌であれば決してしない(食べない)。

b) たとえ健康に悪い事(食べ物)でも好きでたまらないか、やめられないこと(食べ物)はとりあえずそのまま続ける(決して禁止しない)

c) 健康に良くてしかも自分がとても好きなこと(食べ物)を一つでもよいから始める(食べ始める)

以上の通りですが、講師からは「話を聴くだけでなく、是非共の実行を」と強調されています。なお当日欠席された会員の中で、内容を知りたい方や即実践されたい方の為に、講師の著書「BOOCS」(NEC出版)に詳述されている事を申し添えておきます。

熊本市の生活用水をまかなう阿蘇西麓域の地下水の保全

—— 地下水かん養対策セミナー(12年12月7日) ——

小路 順一(農業・熊本)

熊本市の生活用水は、阿蘇西麓域の地下水に全量依存しており、地下水の保全は極めて重要な課題である。阿蘇西麓域は広大な農地(水田、畑、草地、林地)が占め、大量の地下水をかん養している。しかし、農地は昭和40年代から、年0.34%減少し¹⁾、逆に流出地目(市街地、宅地、道路、工業用地)は増加している。このため、地下水は減少傾向にあり、熊本市民にとって深刻な問題を投げかけている。

地下水の増加を目的とするかん養工法には、農地を利用する面的なかん養工法と都市部で行われている点的なかん養工法がある。水価が安く効果の発現も早い工法は農地を利用する工法である。そして、かん養工法の検討には、水量、水質の両面からのアプローチが求められる。さらに地下水流動方向を把握し有効な範囲で実施することは自明である。

阿蘇西麓域を東西に流れる白川の中流域には、白川中流域地下水プールと呼ばれる大きな地下水盆の存在が示されている²⁾。阿蘇西麓域から浸透した雨水は地下水となり、このプールを経由し熊本市へと流動する。

白川中流域に広がる水田地帯は、昭和28年の白川の氾濫による沖積土で覆われ大きな浸透能力を持ち、人工かん養の対象地域として良好な条件を備えている。また、水田の持つ水質浄化能力は高く水田の多

面的機能の一つと評価されている。そこで、減反による休耕地や冬季水田に既設用水路から取水し水田湛水によるかん養工法を提案した。そして水田では水生作物を栽培する生産活動も合わせて行うこととする。これは、かんがい期には稲わらを栽培し、非かんがい期はクワイ、水フキなどの水生作物を栽培する計画である。

水田以外の農地では、畑面をレベルとして畦畔で囲む畑地流出抑制型地下水かん養ほ場、ビニールハウスに降る雨水を浸透マスからかん養する工法など農地全般を活用した工法を提案した。さらに、農村では、環境の整備と地下水かん養の理解を目的とした親水公園型浸透池を計画する。

実施に際しては、地下水の供給側と需要側が異なる点に留意し対策を講じる必要がある。すなわち、農村部では地下水かん養の場を提供するだけで、利用者は下流の都市部住民という、利益が共有できないことである。

そこで、都市部では、水田で生産された稲わらと水稲との差額補填、水生作物の販売支援など、農村部と密接な連携を図る必要があり、互いのコンセンサスを得ることが重要である。

参考文献：1) 熊本市水資源対策室(1987)：熊本の地下水
2) 熊本県・熊本市(1995)：熊本地域地下水総合調査報告書

部会報告

第一部会技術研修見学会

機械電子研究所

第一部会長 山谷 三郎（機械・福岡）

平成12年12月4日(月)13:20より第一部会本年度の研修見学会を「福岡県工業技術センター・機械電子研究所」にて実施しました。

機械電子研究所は、古くは機械試験所と言っていたのですが、時代の変化と共に研究を主体とした現在の名称となり、組織と共に事業も新規発足した福岡県所属の公設の機械系と電気電子系の機関です。

県の研究機関は、この外に化学繊維研究所（筑紫野市）生物食品研究所（久留米市）インテリヤ研究所（大川市）があります。

この見学会の参加者は、福岡及び北九州地区から27名の諸先生でした。見学は先ず生産技術部長・斎藤宏昭氏より挨拶と研究所内研究組織及び当日のスケジュールについての説明がありました。所内は、6部門の課があり、技術研究職35名を含んで総員45名構成です。

その主たる研究試験設備は、音響研究の無響室、高精度測定室（三次元測定を含む）、高度材料開発室、環境試験室、エネルギー制御実験室（熱画像装置）、流体関係と材料実験室（水質浄化・材料試験・氷蓄熱実験装置）、電波暗室、真空溶解炉室、金型製作・機械加工実験室（CAD/CAMシステム）、拡散接合・HIP装置、ロボット制御支援システム室等であります。

見学は上記順序で案内者説明付きにて実施されました。特筆事項は、これらの実験設備の可なりは民間企業等にて有料使用になっていることです。

続いて所内研究者2名から、2題の研究発表がありました。

その①は「6軸高精度ヘール加工システム開発」と題して、生産技術課の神谷昌秀氏（技術士）による角形ヘールバイトを使用して $0.4\mu m$ の表面粗さを可能とする4～6軸制御のCAD/CAM加工法の講演でした。この加工法は、従来不可能とされていた溝隅の加工を可能とする画期的なものでした。

その②は「電磁環境の改善に関する研究」と題して、電気電子系の石田康弘氏の電磁波のノイズ源を

探知する新探知法にて、放射ノイズや位相差誤差を克服する方式の講演でした。

終りに、太田所長殿（技術士）斎藤課長殿を始め、用務多い中にも拘らず、多大の時間をかけ、設備及び研究発表を準備し研修見学をさせて戴いたことに、心より厚く感謝致します。また有効な諸実験装置・設備を、特に中小企業にて創造開発に活用する必要性を感じました。

第二部会研修

嘉瀬川ダム工事現地見学会

第二部会長 清水 博和（建設・福岡）

第二部会の平成12年度の現地研修会は、去る11月29日（水曜日）に佐賀県佐賀郡富士町の嘉瀬川ダム工事現場で実施しました。

参加人員は総員36名、建設部門25名、応用理学部門3名、電気・電子部門2名、経営工学部門2名、機械部門1名、林業部門1名、事務部門1名、事務局1名、民間コンサルタント1名でした。

9時博多駅筑紫口から、〈つくし観光バス〉の大型バスで出発し、10時30分富士町役場到着、ダム現地付近の集会所で、嘉瀬川ダム工事事務所の副所長森勝義氏（技術士）から懇切丁寧な説明をお聞きして、午後からは富士町の江口建設課長の説明で北山ダムと嘉瀬川ダムの水没予定地の文化財関係、代官屋敷跡地、吉田邸、アーチ石橋、石造りの発電所等の見学をし、それらの文化遺産の保存の方法について考えさせられた。

このダム建設事業には当初は反対の意見があったそうであるが、現在では反対の看板は一切なく、寧ろダムによる水辺環境を利用した山間僻地の地域づくり、活性化を計る地域住民全員による意見発表の協議がなされている。私もアドバイザーとしてその中に入れて貰っている。ダム湖の最上流部は福岡市境から10km余りと近距離に位置しているので、温泉を含めて貴重な観光資源として、福岡市民の憩いの場となるように協議をしている。

福岡市民の特に子供に魅力のある施設が必要であろうと私は考えている。

夕刻には古湯温泉に浸かり、疲れを癒して帰途につき、全員無事に博多駅到着し、解散する事が出来た。

地域活動

北九州地区

月例技術研修会など

代表幹事 泉館 昭雄（電気・電子）

平成12年年央以降も、ほぼ年初計画に沿った活動をしております。本年は、継続教育制度を意識し、月例会の呼称を「月例技術研修会」に改めました。支部行事として月刊「技術士」行事予定欄に掲載しております。報告テーマ名及び報告者名は、下表を参照下さい。多岐にわたる専門分野からの報告です。会務報告の主題は、技術士業務開発の状況、本部・支部動向、殊に技術士法改正に伴う制度変革でした。会員数は約120名で、前記研修会出席者は20～30名、毎回初めての出席者を迎え、且つ地区外からの参加者もいます。12月総会、忘年会は、50名を越える盛況でした。技術交流、異業種交流、親睦の場です。

報告に対し会員から一件成約がありました！
独立技術士の主要業務先は、北九州テクノセンター

TS会、北九州国際技術協力協会、ISO 9000、14000指導、中小企業支援関連、並びに建設コンサルです。社内技術士は、工学鑑定、公的開発受託事業に参加しています。次年は、中小企業支援事業関連（国、県、地域）、工学鑑定に更に力を注いで拡大する予定です。地区技術士会として受託する事の可否が話題になっています。特記事項は、公的開発事業を二名の先生が、それぞれ受託し計二件実行しています。技術士のありようのモデルです。研修会共催、発表、委員会活動等支部・本部活動に積極的に参加しています。活動費用の捻出が課題です。

(12-13年)月・日	報告テーマ	報告者・部門
6・16	鋼材の強制制御冷却技術設備現状	沼尻健次・機械
7・15	雑排水の小型排水浄化処理技術	村谷敏雄・化学
9・16	溶射技術、基礎と適用事例	坂田一則・金属
10・20	大型サイクロンセラミックスの開発	是永逸生・機械
11・18	リサイクル事業と社会システム	垣迫裕俊・建設
12・16	エコエコ理論、経済と環境との両立に向けて	岡本久人氏
1・17	蓄熱燃焼技術の現状と今後の展望	戸木田康夫・金属
2・17	石灰石の有効利用としての1,2試み	河内大明・建設
	プラントエンジニアリングにおける危機管理のあり方	沼尻健次・機械

長崎

地方における技術士 CPD

代表幹事 山口 和登（応用理学）

長崎地区における研修会等の活動は、定期的には年始めに実施する新年研修会と毎年6月に実施する県技術士会総会時の研修会である。その他として臨時にシンポジウム等も開催する事がある。

今年の新年研修会は2月2日(金)に諫早市内のホテルで実施した。講師は日本技術士会会員で九州支部の会計監事を務められる永濱伸也氏（応用理学）で、テーマは『今後の技術士制度とAPECエンジニアについて』であった。

出席者は30名で、ほとんどが技術士であった為、研修内容の内、特に出席者が関心を示したのがCPDの問題であった。特に問題となったのが、地方において年平均50時間のCPDが可能であるかと言う点であった。実際に地方においては、日本技術士会や関係学協会、大学等が公式に開催する研修会、講習

会シンポジウム等は少なく、近くても福岡での開催に出席しなくては年平均50時間のCPDは大変難しいとの意見があった。私も同じ様な考えを持っていた為、この点については地方に在住の技術士が不利益とならない様な方策を検討すべきであると考え。この方策については別の機会に述べさせてもらうとして、CPDの必要性は技術士各位は十分に理解しておられた点は大いに勇気づけられた。

研修会終了後の懇親会で、技術士会顧問であられる黒瀬正行氏より、APECエンジニアは世界に通用する技術士となる為の非常に良い制度であり、実績でしか実力を示せなかった自分達の時代（黒瀬顧問は今年で80才との事）に比べて、大変良い時代となったとの言葉があった。更に、今からの技術士は語学、特に世界共通語である英語は特に必要であり、CPDと共に英会話を明日からでも勉強しなさいと発破をかけられた。これには出席者一同うなるしかなかった。

以上、新年研修会について報告しましたが、地方における技術士CPDは多くの問題点を抱えているものの技術士自身で解決すべき問題でもあり、この点は今後大いに議論して行こうと思う。

熊本

今年の行事

広報委員 吉田 紘淋 (応用理学)

12月31日は単に1月1日の前日だけど、気分的には、大晦日に都合の悪いことを全て切り捨て、元日に多少遅れた初日を拝み、太宰府天満宮に初詣すると、いっばいに書き込んだ黒板を全て消してしまったように、すっきりした気分になるのが不思議です。宇宙の動きや社会の動きに上手くマッチして、何とか生き延びようと努力している訳ですが、特に、他人との接触で学ぶことが多いのに、不景気のため仕事一途にならざるを得ず残念です。今年、熊本県における技術士会の予定は次の通りです。

1)茶話会:会員技術士2~3人を講師としたセミナー形式で行う。

2月15日・5月15日・8月15日・11月15日

2)平成13年度定期総会:セミナー・懇親会・12年度合格者並びに新加入者紹介

4月23日

3)ISO講習会:(講師)小島義博

4~5月頃

4)忘年会:セミナー・懇親会 12月7日頃

5)その他:熊本県建設コンサルタント協会技術委員会にて

① 技術研修発表会…11~12月頃

② 現地見学会…7~8月頃

③ 資格取得支援講習会(技術士・RCCM)…5~9月頃

上記の行事は下記の組織が単独或いは合同で実行しておりますが、一般技術士の一部の方には九州技術士センターを含めて、未だその組織が十分理解されていないようです。

熊本県技術士会(会長:青山次則)…年会費¥3,000-

技術士・技術士補の任意団体で、名簿発行・懇親会とセミナーが主な行事 (社)日本技術士会九州支部(熊本地区代表幹事:林博昭)…本部年会費¥24,000-

茶話会・ISO講習会・建設コンサルタント協会技術委員会における行事 (社)日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センター(理事長:林博昭)…本部会員+年会費¥20,000-

「有明海・八代海の沿岸開発と国土防災」等のシンポジウム(1月26日)

受託業務(JRA日奈久開発等)・情報誌出版

宮崎

技術士法改正と宮大の取り組み

代表幹事 新城 精一 (建設)

就職の面接試験で「技術士補を取ったのは、就職で少しでも有利になると思ったからか」という質問をされ、学年が痛く傷ついたが、そんなにも技術士補は価値のないものかと先生が嘆かれたとき、「技術士補は、技術士受験のための期間短縮のメリットしか無い」などと無神経にも追い打ちをかけてしまった事を反省しています。

技術士補が評価されず軽い存在であった頃から、宮大は、学生の実力養成、実力判定の為にもと技術士補の受験を奨めてこられた。その後、技術士会の呼びかけもあって、他の大学でも受験者が増えたようですが、今回の技術士法改正で技術士補の位置付けが技術士の一次試験として名実ともに明確になり、技術士を取得するためには、避けて通れない関門となったことで、宮大の努力が報われた思いがします。

また、この度のJABEEの認定制度に対しても、

いち早くカリキュラムを変更し、卒業と同時に一次試験の免除が得られるように対応してこられた、これは、独立法人化対策も含めて、地方の大学として生き残りをかけた必死の努力でもあります。

JABEEの認定制度は、資格の国際化、あるいは、技術の国際的な同等性を求めたものであり、例えば、PEの場合、認定された大学を卒業していることが条件になっており、それに準じたものといえます。また、技術士法改正では、真っ先に職業倫理がうたわれ、技術者の社会的責任が明確にされましたが、同時に大学においても技術者倫理として社会に対する責任能力の養成を義務付けております。

ともあれ、卒業と同時に一次試験が免除され、技術上への門戸が大きく開かれるようになれば、医学生が医師国家試験を目指すように、工学部の学生も当然のように技術士を目指す時代が来るのかも知れません。

去る11月9日、宮大の今井富士夫教授に表題のテーマでご講演をいただいたのを機会に、宮大の状況をご紹介させていただきました。

I 文化遺産『地名』を訪ねて

大串 正（建設・佐賀）

今から25年ほどまえ、長野県北安曇郡白馬村を訪れたときに、民宿の主人から聞いた話を懐かしく思い出しています。

「白馬（はくば）は昔はしろうまと言い、代馬と書いた。田植えの頃になると北アルプス北壁の残雪が馬の形となって現われる。農家はこれを合図に苗代の準備にとりかかる。だからこの地を代馬（しろうま）と言い、いつの頃からか白馬（しろうま→はくば）と呼ぶようになった。」

私はこの話がきっかけとなって、変化しながら生きている地名に関心を持ち、今も旅先で、仕事先で、地形図片手に地名を訪ねる旅を続けています。

「どこにお住まいですか?」「ご出身はどちらですか?」と尋ねられたとき、ふつうは「・・県・・市・・町です」と地名を口にするものです。

日本技術士会九州支部・九州技術士センターの所在地は「福岡市博多区中央街」、私の住んでいるところは「佐賀県杵島郡白石町」の地名で呼ばれています。

それでは無数にある地名はいつ頃どのようにして命名されたのでしょうか。

山口恵一郎氏によれば、地名は命名の由来、起源によって、つぎの四種型に分けられるそうです。

- ①【地形語】自然環境を端的に表現するか、または広くこれにちなむもの。地形・気象・動植物に由来し、地形語で代表されるもの。窪地・谷あいを意味する久保、湿地を意味する牟田(九州に多い)など。
- ②【法制語】土地制度や税制、または軍事・政治などに関連して与えられた法制的・政治的な意味を持つもの。③類と重合するものが多い。古来部民制に由来する地名、調布・二ノ坪、吉野ヶ里(条里制に由来し佐賀県神埼町付近に～里の地名が多い。)
- ③【社会語】狩猟・漁撈・農耕または交換経済・共同生活などでの生産・流通に関連して発生した社会経済史的な意味を持つもの。開発地名は①②類と重なることもある。
- ④【生活語】信仰・民族・口碑・伝承・衣食住など

生活に関連して発生したもの。釈迦ヶ岳など山の名、庚申・傍示など。

このように、地名は土地のイメージを表現し、地域の歴史を物語り、それが作られていく過程を説明する実在であります。したがって、地名自体が貴重な文化遺産であると同時に、現在に生きている生活の貴重な資料でもあると思います。

ここで、養殖海苔の不作でたいへんな問題となっているわがふるさと、有明海湾奥部の干拓地に点在する地名群について紹介いたします。

遠浅の有明海沿岸は、主として近世以降、干拓が進められて陸地が増えていったところ です。干拓は、とくに江戸前期から中期にかけて大量に増加した新田開発であります。こうした新開の土地はふつう新田とか新開とかの呼称がつけられていますが、有明海湾奥部では～籠(こもり)～搦(からみ)の地名が多く見られます。搦は柵(しがらみ)のことで、これは干拓が前面に潮土居と称する潮止め堤を築き、その内側を陸化していることからきたものと思われる。籠も同様な意味を持つものと思われる。そして干拓地の名称と同時に、堤防に沿って形成された入植集落の名称となったようです。

このように、点として表現された地名を面として捉えることは、地名群(地域の顔)が物語るその土地の歴史や性格を知る上で重要な手がかりになります。

これに反し、明治二十年の町村制施行、昭和二十八年に始まる町村合併促進法に基づく合併により新地名が生まれました。

これは合併町村の各文字をとって継ぐ合成地名が主となっています。たとえば、佐賀県の浜崎と玉島が合併した浜玉町、東京国分寺と立川の中間位置であることから国立市などがこれにあたります。このような合成地名は実に多く、先に述べた文化遺産とは言いがたいと思われるかもしれませんが、しかし、合成地名ができた背景を物語る見地からは十分に意味があるものと思います。

技術士諸兄におかれましても、旅先で、出張先での地名、現在お住まいの地名の由来を、訪ねられて

見てはいかがでしょうか。地名は貴重な無形文化財だと思います。(新九州測量設計(株))

II

「心筋梗塞を体験して」

大分県代表幹事 箴島 昇(建設)

相田みつを氏の言葉に「体験してはじめて気がつくんだな」というのがある。私は、今回貴重な体験をしたので、この場を借りて述べさせてもらうことにした。中高年になると、いつおそってくるかわからない病気に「脳梗塞」「心筋梗塞」などがある。死につながる「急性心筋梗塞」を体験したものである。

病気らしい病気は殆どしたことがなく、人間ドックの時を除いては、入院したことは一度もなかった。

「心筋梗塞」は一般的には左心室の心筋の冠状動脈が詰まり、心臓の細胞が一部壊死を起こす病気とされている。私の場合は、冠状動脈の比較的根元が血栓等で詰まって生じた。似たような病気に「狭心症」があるが、これは冠状動脈の血流が悪くなって起こる病気である。私自身は、この区別すら知らなかったのである。何の前兆もなく、突然、たとえような胸痛を感じた。吐き気を伴い呼吸するのも苦しい状態であった。初めて経験する痛みに苦しみながら、妻の手配で心臓関係の救急病院へ救急車で運ばれた。

「CCU」施設のある病院で処置が行われた。「CCU」とは冠動脈疾患治療棟があり、PTCR(血栓溶解療法)とPTCA(経支的冠動脈内腔拡張術)を併用して治療を行う施設である。足元の大動脈からカテーテルといわれる管を挿入し、心臓の冠状動脈の詰まっている箇所処置が行われた。カテーテル・バルーン療法と言われているものである。意識もはっきりしていて、胸部の激痛はバルーン術が終わるまで続いた。私の場合は、発作から専門病院へと連携がうまくいき処置までの時間が短かったことが幸いして、九死に一生を得たのである。

集中治療室で2日間の治療を受け、その後、一般病棟に移り、治療と心臓リハビリを約1ヶ月行った。ダメージを受けている部分の細胞を時間をかけて少しずつ回復させるのが目的で行われるものである。最初のカテーテルが終わった時点で、すぐに動ける

ような気持ちになるが、この時期を大切にしないと死亡率も高いとのことであった。

退院の前には手首の動脈からカテーテルを挿入し、冠動脈の梗塞した部分のチェックが行われた。レントゲン結果を見せてもらったが、治療後も血管が砂時計みたいになっており、その時点では50パーセントぐらいの血流断面回復ということであった。このチェックは3ヶ月に1回必要であり、今後も検査することになる。私の場合、よく助かったと医師からもいわれているが、現在は職場に復帰している。いづれにしても厄介な大変な病気であるが、早期の処置が大切である。

原因は何であるかを反省してみると次のようである。定期健康診断では、血圧は境界型(90~140mmHg)、糖尿病も境界型(空腹時(119食後2時間200mg/dl))ということで、生活習慣病の注意は受けていたが、自覚症状もないこともあって無視していた。一つには父が99才、母が83才まで生きての長寿の家系ということもあり不摂生をしていたことも事実である。喫煙、高脂血症、脂の多い食物、ストレス、運動不足、肥満化傾向、A型気質(積極的だが攻撃的で短気)等が心筋梗塞の原因と言われている。私の場合、喫煙は25年前にやめていたが、上記の項目で喫煙以外はすべて該当する生活習慣であった。

退院後は血液が固まるのを予防する薬など数種類の薬を飲んでいるが、出血を伴う病気、けがなどしないように注意されているが、退院後、そのような病気になり、心臓の具合を見ながら、止血の点滴を受ける治療を受けたこともあった。

今回の体験で思うことは、定期健康診断等は不可欠であり、その結果に対する医師の指導は忠実に守ることが肝要である。日常の生活の中で、生活習慣病の要因は、完全に取り除く必要がある。

技術士諸先輩方の健康のために多少でも参考にさせていただきたいと思う。

おめでとうございます 平成12年度技術士第一次,第二次試験合格者(福岡会場)

☆第二次試験〔技術士〕(平成13年2月9日発表)

機械部門	渡邊 利夫	辻 弘見	山下 昌木	重田 佳幸	酒井 俊次
(鉄道車両 及び自動車)	富川 康志	白鳥 寛	山田 満	真下 義章	豊國 法文
小林 健治	大友 久人	山本 浩介	市川 雅史	山田 清	松岡 弘文
森光 毅	谷水 秀行	岸野 純一	(電力土木)	黒岩 正信	岡本 正美
	島谷 竜一	中桐 省三	松葉 保幸	犬塚 忠之	山川 武春
	田中 義人	山辺 眞一	松田 智行	(施工計画, 施工 設備及び積算)	緒方 建二
電気・電子部門	夏目 隆弘	重松 博美	(道路)		江口 恒夫
(発送配変電)	尾長谷 孝之	田中 一成	堀 康雄	鶴丸 雅徳	松波 利治
官脇 優	(鋼構造及び コンクリート)	高原 茂樹	小路 智	三浦 伸也	田所 正
(電気応用)	沼田 晋一	渡辺 孝司	松岡 隆	満倉 忠勝	山本 美子
溝口 秀司	吉屋 英行	(河川, 砂防 及び海岸)	五ノ谷 精一	吉田 伸一	小林 耕郎
永吉 英	遊佐 和明	鈴川 俊道	中野 晴夫	伊藤 隆之	平井 一三
秋山 智光	竹中 啓二	林 信雄	原 康彦	池田 安企	加治木 博明
(情報通信)	吉川 健二	杉尾 哲	内田 一成	菊池 晟	竹元 重博
志垣 貢	薄 達哉	山本 祐二	西田 員敏	安達 高春	兼安 勝介
	今金 真一	長野 紘一	日田 健一	山下 文章	幡東 孝則
化学部門	木田 英之	松井 幸太郎	小川 澄	本蔵 耕治	南 英明
(セラミックス 及び無機化学 製品)	堀 雅之	堤 泰彦	福島 裕充	吉村 清二	松田 研志
松田 臣平	田中 政章	木村 志朗	志賀 浩二	吉弘 英光	鶴本 慎治郎
	府内 洋一	山田 文彦	亀崎 直隆	佐藤 貴美	松尾 景治
	萩原 清文	中島 克人	前田 秀高	桑原 照男	河内 義文
金属部門	吉田 須直	盛崎 哲朗	湯地 三子弘	有須田 富雄	山下 清春
(鉄鋼生産 システム)	千々岩 浩巳	磯脇 繁信	石田 和昭	小村 日出夫	
近江 洋	清原 秀紀	伊東 貢	荒瀬 美和	伊崎 裕滋	水道部門
(金属材料)	鳥山 郁男	萬 運	東 正美	稲垣 浩通	(上水道及び 工業用水道)
高橋 明彦	平安山 良和	永矢 貴之	二宮 雅彦	別府 道郎	下原 弘文
(表面技術)	玉置 一溝	坂口 達也	(鉄道)	大工 末夫	宮内 新一
香月 俊幸	荒川 正彦	金本 満	幸野 茂	柴田 雅俊	
(金属加工)	荒川 直樹	濱口 眞治	松本 雄二	(建設環境)	(下水道)
鈴木 雅直	崎本 繁治	中村 智	(トンネル)	奥山 壽徳	寺師 政廣
	(都市及び 地方計画)	平松 信幸			
建設部門	上野 晋也	池田 高則			
(土質及び基礎)	阿部 孝治	福嶋 泰彦			
柴 錦春	満留 康裕	中川 勝夫			
内山 正敏	西田 浩	森田 一彦			
柿原 芳彦	福本 哲也	津山 友一			

平成12年度技術士第二次試験結果

		全 国	福 岡
受験申込者数	(人)	39,300	3,262
受験者数	(人)	25,567	1,874
合格者数	(人)	3,373	236
対申込者合格率	(%)	8.5	7.2
対受験者合格率	(%)	13.1	12.5

川村 敏文	計画)	土井 良一	角田 範明	<u>経営工学部門</u>	田辺 龍平
安藤 弘俊	松本 良二	有馬 純彦	(地域農業	(プロジェクトエ	松川 浩一
中島 謙	柴垣 満	中山 晃	開発計画)	ン지니어リング)	村山 政裕
井 重男	境 道啓	福島 守	守田 隆充	武居 博道	岩尾 雄四郎
樋口 敏昭	菊池 勲	白石 武彦	坂本 皓一		三田 和朗
衛藤 郁		阿萬 次郎		<u>情報工学部門</u>	三谷 由加里
一丸 務	<u>農業部門</u>	山下 博	<u>林業部門</u>	(情報応用)	坂井 正治
石井 信次	(畜産)	長野 義次	(林業)	矢野 純一	松田 鉦二
加藤 晃一	前原 俊浩	本川 義一	家入 龍門	平山 公一	義山 弘男
河村 英夫	(農業土木)	下水流 隆	(森林土木)		松下 典史
松尾 孝則	竹下 章男	久保 章	渡邊 修司	<u>応用理学部門</u>	松尾 淳
	豊田 裕道	官本 聖治	武末 茂	(物理及び化学)	
<u>衛生工学部門</u>	溝下 康之	高瀬 寛之	西窪 文敏	川崎 卓	<u>環境部門</u>
(廃棄物処理)	廣戸 俊夫	大久保 堤		(地質)	(環境測定)
安部 博文	正林 一城	西 重好	<u>水産部門</u>	琴尾 公彦	下津 義博
(空気調和施設)	佐藤 道広	窪田 不二雄	(水産土木)	茶圓 光弘	笠作 欣一
藤村 洋人	秋野 義廣	谷山 廣行	木田 英之	飯島 康夫	松原 英隆
(廃棄物管理)	福田 俊仁	伊藤 彬		日根 幸雄	

☆第一次試験〔技術士補〕(平成12年12月20日発表)

<u>機械部門</u>	内田 幸久	平木 伸尚	上熊須 隆	生垣 純昌	豊國 法文
池田 祐次	岡安 功二	高木 稔	小野山 裕治	石原 智之	木原 真
	小西 義夫	井上 高志	篠崎 あや	渡辺 望	前田 智宏
<u>電気・電子部門</u>	村田 勇次	益戸 宇英	佐々木 末穂	渡邊 浩年	有村 敏郎
松下 崇俊	伏原 実	満安 政幸	佐多 寛	工藤 徹郎	仁木 佳男
丸山 雅英	一町 伸弘	西田 康彦	松野 徹	甲斐 義隆	野々山 祐史朗
金子 康宏	溝渕 滋郎	圖師 雄一	加藤 哲也	高木 正行	南谷 貢
房野 俊夫	谷川 敏行	寺尾 勝美	迫田 泰治	中村 隆一郎	福田 修二郎
佐藤 学	勝谷 康之	盛崎 哲朗	小原 英徳	福田 弥生	瀬山 正隆
佐藤 勝	江藤 雄志	高谷 清香	高橋 幸平	福田 健作	本田 明寛
天野 忠幸	岩崎 征夫	山元 隆	巢山 藤明	奥平 雄一	長野 裕之
	岩野 明	白川 修	内山 執樹	黒木 健二	朝井 裕二
<u>化学部門</u>	森永 哲也	梅木 憲二	廣本 修	坂口 俊一	椎葉 晃吉
井上 勇輔	橋元 健二	山下 修二	田中 卓	内山 雅仁	新城 河一郎
高橋 暁司	松下 純子	水野 智仁	田原 和久	高瀬 太郎	松尾 城
齊藤 弘毅	原 正広	官崎 耕輔	松岡 英明	柿下 誠也	松木 浩志
	高塚 種雄	松井 武志	宇土 和彰	盛田 信広	大重 和宏
<u>建設部門</u>	下大迫 博志	山本 慎太郎	清原 希久利	最勝寺 恒郎	宮下 孝文
朝久野 博昭	横井 健一	中野 佳隆	井手野 宏明	瀬戸 智理	古島 恵美
前木 浩利	桑鶴 壽	軍神 宏充	姫野 桂一	茶園 孝行	神屋 省一

古賀 謙太郎	白石 悦二	今村 弘美	鈴木 哲也	林業部門	碓井 敏彦
菊池 哲也	丸山 圭	高橋 秀一	平田 幸夫	倉本 岳浩	石川 昌信
茂山 史憲	日高 伸也	瀬川 智也	肥後橋 匠	西窪 文敏	江口 暢公
高木 邦好	馬比尾 孝一	森 隆信	田鍋 貴時		古部 和洋
上原 尚也	直江 義清	松田 浩一	浮邊 康弘	情報工学部門	小野 孝
栃尾 健	藤井 基史	下山 強美	本口 晴年	森 昭寿	
西川 剛一	杉本 昌由	吉田 健二	堀米 幸矢	平郡 政幸	環境部門
川岡 敏久	谷村 浩二		野木 芳幸	井上 清敏	金丸 太守
中野 秀彦	中野 浩二	水道部門	柴崎 一良	西原 忠信	藤川 孝作
藤井 卓哉	挑井 信也	川崎 互	高橋 信司		毛利 郁史
宮脇 伸行	白石 文治	大坪 大介	清水 泰宏	応用理学部門	荒川 浩成
奥津 奉齊	河邊 修作	富田 健	中川 英	井形 秀一	佐藤 浩介
嶋田 紀昭	竹岡 敏朗	仲元寺 宣明	今村 英史	隈本 文子	岩下 聡子
山田 浩司	渡邊 慎一郎	石橋 大二郎		大野 泰治	
藤野 健治	徐 光大	高出 誠			
佐藤 克徳	新村 弘道				
安藤 高士	原 康	衛生工学部門			
福澤 一博	松下 正博	新町 一郎			
伊藤 創	吉武 徳浩				
沖 達也	緒方 秀行	農業部門			
萩原 崇	松田 如水	山田 雅一			

平成12年度技術士第一次試験結果

	全 国	福 岡
受験申込者数 (人)	18,659	1,916
受験者数 (人)	12,326	1,261
合格者数 (人)	2,462	203
対申込者合格率 (%)	13.2	10.6
対受験者合格率 (%)	20.0	16.1

海外業務トピックス

フィリピンの
鍛造技術指導

宮田 守次 (金属・北九州)

1. いきさつ

1996年から1998年までの間に、フィリピン鍛造業界等の調査と技術指導及び講義 (JETROよりの海外派遣専門家委託, 通算3回延べ42日間), 1999年1月~3月の50日間のACME TOOLS MFG., INC.の鍛造技術及び生産管理指導 (JODCよりの海外派遣専門家委託, 4回目), 更に1999年10月より2000年10月までの1年間, 同社の鍛造技術及び品質管理指導 (JODCよりの海外派遣専門家委託5回目)と長期にわたる技術指導体験をしてきました。更に2001年5月頃から2002年5月までの1年間, ACME TOOLS社を含む, 数社の企業の技術及び品質管理 (ISO 9000s 導入も含む) 指導の話も進行中です (JODC)。

JETRO: 日本貿易振興会

JODC: (財)海外貿易開発協会 何れも経済産業省
管轄

2. 目的

目的は日系進出企業はじめ, フィリピンの自動車産業や家電産業, コンピュータ産業等に関するサポートインダストリー (裾野産業) 育成のための調査と, 指導すべき重点企業の推薦, さらにその企業の技術指導を行うことでした。

3. 主な内容

今回は主要製品である, 特殊ボルト・ナット類や自動車部品等の型鍛造の金型設計・製作, プレス鍛造作業法, 鍛造製品の熱処理と機械加工, 更にSUJ-2高炭素クロム鋼製無段変速用コーンの製造技術開発及び受注活動指導, 新工場設備レイアウト指導, 作業の標準化推進, ISO 9002の導入準備, など多くの事項について指導をしてきました。

(宮田技術士事務所)

会員ニュース

☆社団法人日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先／下段：勤務先) 〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉	TEL	FAX
北九州	正会員	目山 直樹	建設	〒750-0009 下関市上田中町2-10-15 シャトー下関501号 勤：(株)福山コンサルタント	(0832)33-8452 (093)931-3105	(093)832-1282
福岡	正会員	甲斐 伸一	建設	〒815-0041 福岡市南区野間3-16-17-103 勤：サンコーコンサルタント(株)	(092)512-1630 (092)271-2900	(092)262-1146
福岡	正会員	福富 幹男	応用理学	〒816-0813 春日市惣利5-30 勤：(株)カミナガ	(092)915-5551 (092)451-6221	(092)451-4854
鹿児島	正会員	花木 幸雄	農業	〒895-0013 川内市宮崎町3631-4 勤：(株)大重測量設計	(0996)23-8719 (099)251-2111	(099)251-2143
長崎	正会員	山喜 秀昭	農業	〒852-8145 長崎市昭和3-1-16-204 勤：(社)長崎県食品衛生協会食品環境検査センター	(095)883-6830	(095)883-6981
熊本	正会員	福島俊一郎	農業	〒869-0543 熊本県下益城郡松橋町南豊崎78-3 勤：東急建設(株)九州支店	(096)354-2020	(096)356-3609
福岡	正会員	森 与志信	応用理学	〒810-0074 福岡市中央区大手門3-6-5-304 勤：東邦地下工機(株)	(092)581-3031	(092)582-1277
福岡	正会員	水谷 和秋	化学	〒811-1314 福岡市南区的場2-10-14 的場寮220号 勤：西日本プラント工業(株)	(092)571-4194 (092)533-1773	(092)533-1736

☆九州技術士センター 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先／下段：勤務先) 〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉	TEL	FAX
鹿児島	正会員	星加 博二	建設	〒812-0053 福岡市東区箱崎5-11-1-511 勤：川内測量設計(株)	(0996)23-5099	(0996)23-2423
福岡	正会員	田淵 耕治	建設	〒819-0052 福岡市西区下山門2-13-16 エクセレント下山門Ⅲ605 勤：住友建設(株)九州支店	(092)882-1317 (092)761-6044	(092)761-6617
福岡	正会員	高田 寛	建設	〒814-0022 福岡市早良区原1-17-10-506 勤：竹中工務店九州支店	(092)831-0209 (092)711-1211	
福岡	準会員	草場 敏宏	建設	〒811-1434 福岡市南区和田4-1-52 あざみかん101号 勤：西日本技術開発(株)	(092)542-0772 (092)781-2832	(092)781-1419
福岡	正会員	越智 信雄	環境	〒811-3404 宗像市城西ヶ丘4-14-9 勤：(財)九州環境管理協会	(0940)33-8702 (092)662-0410	

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(変更)	TEL	FAX
長崎	正会員	福岡 辰義	建設	勤：〒852-8117 長崎市平野町3-5 (株)建友社測量設計事務所	(095)848-1771	(095)848-1776
福岡	正会員	田代 未信	建設	連：〒810-0031 福岡市中央区谷1-12-6	オーク野村202	(092)751-9229
宮崎	正会員	中尾 幸吉	建設	連：〒880-0951 宮崎市大塚町祝子前1812		(0985)48-3126
福岡	正会員	眞鍋 和義	水道	勤：〒810-8620 福岡市中央区天神1-1 福岡市環境局環境保全部指導課	(092)733-5386	(092)733-5592
福岡	正会員	橋本美喜男	建設	連：〒815-0074 福岡市南区寺塚2-20-20	ハイホルム寺塚543	
宮崎	正会員	曾我部真也	建設	勤：〒889-2151 宮崎市大字熊野地内 宮崎県宮野球場作業所内 飛鳥吉原 JV		
福岡	正会員	藤島 義久	建設	連：〒830-0047 久留米市津福本町1760-12		
福岡	正会員	小川 常行	衛生工学	勤：〒814-0142 福岡市城南區片江5-34-10 (株)九電工空調管理課		(092)523-1231
中四国	準会員	高橋 栄吉	建設	勤：〒753-0067 山口市赤妻町5-29 オリエンタル建設(株)	(0839)73-6171	(083)924-1935 (0839)73-6170
大分	準会員	麻生晋一郎	農業	連：〒874-0910 別府市石垣西8-1-33	寺田屋ビル101号	
中四国	正会員	村上 寛	水産	勤：山口県防府土木事務所	(0835)22-3485	(0835)22-3488
福岡	準会員	川島 伸治	水道	連：〒813-0012 福岡市東区香椎駅東3-13-39	ケンズスクエア105号	(092)674-6011
宮崎	正会員	横山 悟	建設	勤：〒885-0055 都城市早鈴町1957-38 (株)共和コンサルタント	(0985)63-1433	(0986)22-1932 (0985)59-2364

宮崎	正会員	山下 實	農業	勤：〒880-0833 宮崎市昭栄町45~1 雲海酒造(株)技術顧問	☎(0985)23-7896 FAX(0985)23-9829
熊本	正会員	福重 治雄	林業	勤：〒860-0878 熊本市清水町大字兎谷360-173 近代技研(株)熊本支店	☎(096)348-0838 FAX(096)348-0840
長崎	正会員	松浦 恭千	建設	勤：〒859-5153 平戸市戸石川町958	
福岡	正会員	中川 英朗	応用理学	勤：〒818-0132 太宰府市国分3-17-21	☎(092)929-5679
大分	正会員	川窪 一郎	環境	連：〒870-0852 大分市田中町11-1 金城ビル202	
福岡	正会員	清龍 靖則	建設	勤：〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-10-24 (株)オリエンタルコンサルタンツ	
熊本	正会員	桑畑 俊郎	農業	勤：東和測量設計(株)	☎(096)365-6745 FAX(096)365-6747
大分	準会員	吉武 寿志	水道建設	勤：大分県土地改良事業団体連合会 大分県別荘速見地方振興局派遣	☎(0977)72-2018 FAX(0977)72-8364
北九州	正会員	宮田 守次	化学	勤：〒806-0021 北九州市八幡西区黒崎5-3-5-102 宮田技術士事務所ミヤタハイメック	☎(093)642-2612 FAX(093)645-2633
福岡	正会員	馬場 洋二	建設	勤：セントラルコンサルタント(株)福岡支店	☎(092)432-5385 FAX(092)432-5382
福岡	正会員	皆良田征夫	金属	連：〒849-0112 佐賀県三養基郡北茂安町大字シエロ2037	☎(0942)89-9350

☆平成12年度会員名簿の訂正事項

項目	頁	氏名	正	誤
技術士補 携帯電話	146	久保田 史 朗	070-5290-5048	070-5290-504
技術士補 携帯電話	148	小早川 俊 祐	070-5418-4060	070-5418-406
技術士補 携帯電話	150	井 手 淳 一	090-1199-3026	090-1199-302
技術士補 携帯電話	157	高 見 徹	090-9406-1018	090-9406-101

ITメモ -その2-

インターネットについて

センター研修委副委員長 畠中新二郎
(情報工学・福岡)

パソコンの普及とともに、誰にもインターネットが使えるようになりました。インターネットは世界中のコンピュータがネットワークでつながっている通信網でありwww(world wide web: 蜘蛛の巣状の網、略してwebまたはw3)とも言われています。インターネットで実現されるサービスには電子メール(手紙)、www(ホームページ閲覧、登録)、ftp(ファイル送受信)等いろいろあります。個人レベルでは電子メールの利用とホームページの閲覧や開設が主な用途です。

インターネットに接続するためには接続事業者(プロバイダ)と契約して電話によるダイヤルアップ接続サービスを利用すると簡単です。インターネットを使う場合の方法は次のとおりです。

① ウィンドウズ98などのOSのパソコンを購入します。これにはブラウザというホームページ閲覧ソフト(インターネット・エクスプローラ等)や

電子メールソフト(アウトルック・エクスプレス等)が組み込まれ、かつ通信機器としてのモデム内蔵が必要です。

② どれかのプロバイダと契約してアクセスポイント(接続箇所)の電話番号、インターネットに接続するためのユーザ名及びパスワードを覚えてもらう。

③ パソコンを電話線につなぐ。

④ ホームページアドレスを入力して目標のホームページを閲覧する。また電子メールを送る相手のアドレスを入力してメール送信したり、相手からメール受信することもできます。

ホームページアドレスはURL(Uniform Resource Locator)と呼び、一元的に決められるものでwww.yahoo.co.jpなどと表します。またメールアドレスはプロバイダと契約時に登録して決めた自分固有の名前です。

インターネットによって最新のニュースや歴史、科学技術、スポーツ、趣味など多岐にわたる情報を簡単に検索できます。特に「検索サイト」(Yahoo等)という検食用ホームページは情報収集に有効です。電子メールは相手不在でも簡単に早く届くことが特徴です。

御協力いただいている 賛 助 会 員

〔福岡〕

(株)久栄総合コンサルタント
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州事業部
 (株)ダイヤコンサルタント西日本支社
 福岡支店
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧エンジニアリング(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 富洋設計(株)九州支社
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 応用地質(株)九州支社
 日本海洋コンサルタント(株)
 九州事務所
 (株)サンコンサル
 芳野測量設計(株)
 (株)橋梁コンサルタント福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支社
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 (株)アジア建設コンサルタント
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 基礎地盤コンサルタンツ(株)九州支社
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コントラクト(株)
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)

九州環境技術研究所
 西日本技術開発(株)
 (株)富士ピーエス
 日本技術開発(株)

〔北九州〕

日本航測(株)
 (株)九州設計事務所
 (株)吾水総合コンサルタント
 九和設計(株)
 (株)押川測量設計
 (株)都市開発コンサルタント
 九州テクノロジー(株)
 第一復建(株)九州事務所
 (株)松尾設計
 (株)酒見設計
 (株)太平設計
 冷牟田設計コンサルタント(株)
 山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部
 (株)安川電機
 (株)中村測建事務所

〔佐賀〕

(株)精工コンサルタント
 新九州測量設計(株)
 日本建設技術(株)
 (株)九州構造設計
 新栄地研(株)
 九州技術開発(株)

〔長崎〕

大栄開発(株)
 (株)実光測量設計
 西日本菱重興産(株)
 大洋技研(株)
 (株)親和テクノ
 扇精光(株)
 西海地研(株)
 (株)新栄設計事務所

〔熊本〕

(株)九州開発エンジニアリング
 アジাপランニング(株)

〔大分〕

佐伯調査測量設計(株)
 松本技術コンサルタント(株)
 協同エンジニアリング(株)
 (株)日建コンサルタント
 東亜コンサルタント(株)
 (株)テクノコンサルタント
 九州特殊土木(株)
 大洋測量設計(株)

九州建設コンサルタント(株)
 西日本コンサルタント(株)
 南武測量設計(株)
 東洋測量設計(株)
 九建設計(株)
 日進コンサルタント(株)
 ダイエーコンサルタント(株)

〔宮崎〕

(株)弓場水工コンサルタント
 (株)ケイディエム
 (株)国土地質調査事務所
 南日本総合コンサルタント(株)
 (株)宮崎産業開発
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (株)共和コンサルタンツ
 (有)福島測量設計調査事務所
 九州工営(株)
 (有)久保測量設計コンサルタント
 正栄技術コンサルタント(株)
 (株)東九州コンサルタント
 (有)日豊測量設計事務所
 日測コンサルタント(株)
 (株)水理設計
 (株)ダイワコンサルタント
 (株)杉田測量設計コンサルタント
 (株)ジオセンターM
 (株)都南開発コンサルタント
 (株)アップス
 (有)カツキ技術士事務所
 (株)共同技術コンサルタント
 (株)総合開発工業
 (株)国土開発コンサルタント

〔鹿児島〕

中央テクノ(株)
 朝日開発コンサルタンツ(株)
 小牧建設(株)
 (株)久永コンサルタント
 コーアツ工業(株)
 大協(株)
 新和技術コンサルタント(株)
 (株)中村測量設計
 (株)日峰測地
 (株)大紀造園設計事務所
 (株)建設技術コンサルタンツ
 (株)沖縄プランニング

ご案内

パソコンを使うプレゼンテーションの 資料作成基礎講座

この講座の開催を企画しています。

会場：富士通九州R&Dセンター（福岡市早良区百道浜）内の富士通九州教育ビジネス課

コース名：POWER POINT 基礎（基礎的なプレゼンテーション資料作成）

前提知識：Windows98の基本操作が出来ること。

カリキュラム：

1. POWER POINT の基礎知識
2. プレゼンテーションの作成
3. プレースホルダーと文字の編集

4. 図やオブジェクトの挿入と編集
 5. 図形の作成と編集
 6. スライドのデザインと特殊効果の決定
- 以上の6教科です。

日数：1日(9:30~16:30)のコースです。

講習料：講師料1時間1万円×6時間で6万円

(15名受講すれば1名当たり4千円になります)

資料代が1名当たり2千円

大体15名程度で土曜日の開催を予定しています。

受講ご希望の方は3月31日までに支部宛にお申し込み下さい。決定次第、詳細を別途ご案内します。

九州支部監事 野見山益生（機械・福岡）

TEL&FAX 092-662-8791

会誌“技術士”最近の主要目次

平成12年12月号

- ・巻頭言 技術革新とIT技術者のために／野口正一
- ・ミニ特集 [21世紀の情報技術(IT) 展望と構想]
IT革命における情報文化の創成／楠森昭
未来の日本を担うIT／岡橋晃宏
ITで拓く21世紀／黒澤兵夫
ITで描く技術者の夢と挑戦／安田晃
21世紀をひらくデータウェアハウス・システム
／林滋
ITと企業経営／高田顯重
- ・三宅島火山噴火の防災に関する技術士会の提言

平成13年1月号

- ・21世紀を迎えて／梅田昌郎
- ・巻頭言 知識社会の技術／飯吉厚夫
- ・新たな技術士CPDシステムの構想／茶木英一
- ・豪雨による洪水流出の解析／神田浩
- ・企業における技術者の育成／山本道晴
- ・金融工学は現代の錬金術か／丑田俊二
- ・技術士制度活性化へ—理事の提言／久保田信一
- ・第17回中小企業問題研究交流会報告

平成13年2月号

- ・巻頭言 トンネル技術の国際交流／宮口尹秀
- ・SCM（サプライチェーン・マネジメント）について／長谷川欽一
- ・生産設備の導入計画から稼働までのプロセス／山崎嘉彦

- ・2001年度に中国国家専門家局が招待する国際人材交流相談会に参加して／倉内敏郎
- ・海外技術協力実務講演会
- ・第30回日韓技術士会議報告

編集後記

2001年、21世紀の最初の「技術士だより」をお送りします。

世紀の改まりとともに、「技術士法」も改まります。4月1日から新しい「技術士法」が施行され、われわれ技術士はいままでに加えて、社会の公益確保と自己の資質向上と二つの責務を新たに負うことになりました。技術倫理、継続教育（CPD）がその現れでしょう。またAPECエンジニア、それに試験制度の改革と、新世紀の波動は技術士の裾野をどんどん拡げてきています。

素晴らしい時代の幕開けだと思います。（完戸）

発行：(株)日本技術士会九州支部
九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL:

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社